副編集長就任にあたって

「いきなりですが……」

中田眞城子（mplusplus（株））

今回，稲見編集長より副編集長にご指名いただき，戸惑ったものの引き受けさせていただきました．研究者でないばかりか情報処理に詳しいわけでもなく，能力不足なのは自分でも十分認識しているのですが，尻込みして時間に空白を作る余裕はない，そんな年齢だということがこの冒険の原動力になりました．若さ故の向こう見ずと同様に，年齢を経たらなおさら向こう見ずでないと1年は1日のようにあっという間に過ぎていくのです．

私は最近まで，学会誌に携わるとは思っていませんでした．学会との接点というと「ペーパーレス社会」という言葉が流通しだしたころ，週刊誌でコンピュータの専門家として変なコンピュータを装着している塚本昌彦教授（当時助教授）に取材を申し込んだのが始まりです．当時，私は企画編集会社で自治体の広報誌や商業誌の編集をしていました．そのご縁から興味本位でDICOMOに参加したのが12年前，編集長になられた塚本教授に会誌の巻頭エッセイに桂文枝（当時三枝）師匠を紹介させていただいたのが8年前です．そして，約5年前，まだ20代であった研究者の藤本実とベンチャーを設立し，東京に引っ越したことから昨年（2017年）半ばに編集委員に加えていただきました．1月号の「私たちの未来」が初編集．情報処理学会がようやく身近になったと思いきや，いきなり副編集長です．

実のところ，なんでもいきなりする性分で，会社の設立もいきなりでした．周囲には「今さらその年齢で冒険しなくても」と反対されました．関西の仕事を置いてきたので計画性のないこと甚だしいのですが，時間をかけてシミュレーションしても結局やってみないと分からない．それならさっさと決めてやり抜く方法を考えるほうが効率いいかなと．だから，というかなんというか，副編集長もそれから同時にお引き受けした新しいワーキンググループNWG（Nextgeneration Work Group，次世代分野専門委員会）の主査も，動きつつ最善を選択していこうと思います．会社も5年目に入り，ちょうど外へ向けた活動を開始するべき時期が来たと思っていた矢先です．考えればなんと私にとってベストなタイミングでありがたい話が舞い込んできたことでしょう．特にNWGは学生さんに私の編集者時代のノウハウを伝授せよというご要望だと思いますが，きっと教わることの方が多いような気がします．

編集長は「紙の会誌なんてなくてもいい」と思っている人に「そうきたか」と思わせるよう色々と画策されているのでわくわくしています．いつものように，私が動くことによって迷惑を被る人がいるのは想像できるのですが，それを申し訳なく思って立ち止まっている時間も私にはないというのが今の心境で「Beep! Beep!」と走るロードランナー（Looney Tunes）だと思って諦めて何とぞご協力お願い申し上げます．拝

※ロードランナーについては以下をご参照ください．
https://youtu.be/Lbpt66uh248?t=46s

中田眞城子（正会員） pr@mplpl.com

mplusplus（株）取締役CFO兼コーディネータ．（株）学生援護会発行DODA，SALIDA立ち上げにかかわった後に独立．市報や子どもの料理本シリーズなどの企画，Web辞書，ドリルなどを手がけた．大学の産学連携に携わったことをきっかけに2013年会社を設立．